



専務取締役 綿谷 様

講話内容

- ・ 地域企業における DX の取組
- ・ 企業の紹介（社歴、製品開発内容、組織、従業員の年齢層等）
- ・ 他分野や SDGs への取組（野菜栽培）など

学生のワークシートから抜粋

【わかった企業情報等】

- ・ 1936 年創業。機械加工と組立てがメイン。正社員 67 名。
- ・ SDGs への貢献として、火を使わずに廃プラを油に変える装置を開発している。
- ・ LED 空気清浄機も作っている。
- ・ ミニ野菜も作り、ホテル等に納めている。
- ・ DX を行うことの目的は働き方改革。働き方の多様化に対応。
- ・ DX のゴールは会社によって違う。
- ・ いろいろな部署があり、組立課、生産管理課、品質保証課、加工課がある。
- ・ 10 代～80 代の年齢の方が働いている。
- ・ デジタル化へ少しずつ移行している。
- ・ 生産管理システムを使っている。

【気づいたこと・学んだこと等】

- ・ 色々なことをやっていけるというのがすごいと思った。廃プラを火を使わずに油に還元できる技術があるのが面白く感じたし、どうやっているのかが気になった。
- ・ 想像していた仕事の他に、ミニ野菜まで作っていてすごかった。
- ・ 会社には独自の強みがあることがわかった。
- ・ LED 空気清浄機が脱臭目的で作ったが、ウィルスを 99%除菌できたのがすごい偶然と思った。
- ・ 廃プラを油に変える装置ができれば、プラごみが多い国で、かなり大きな事業になると思った。

- ・あまりDXなどのデジタル化に対応していない企業もあるため、私たち世代がしっかり意見を伝え、より社会の向上につながるような行動をすることが大切であると思いました。
- ・デジタル化するにはたくさんのお金がかかるから簡単にはできない。
- ・デジタル化が難しい理由がわかった（今も紙での運用が多い、デジタルに慣れてない人がやるのは大変）
- ・機械のものを作っている会社だと思っていましたが、ミニ野菜なども作っていて、多種多様な会社なんだと思いました。
- ・デジタル化ができれば、若い人や高齢の方、今まで製造業に携わってこなかった人達も関われるようになる。
- ・デジタル化は、お金、時間、労力がかかってしまうことを知って、少しずつ取組むしかないと思った。
- ・高校での知識や技術が社会で役立つことがわかったので、これからの生活を見直しながら過ごしたい。
- ・授業や科の授業などにもっと力を入れていきたいと思った。
- ・事業を起こすにあたって、今の世界の現状など情報を集めないと何をすればよいかわからないので、情報を正しく集めたいと思った。
- ・DXについて、まだまだ知らないことが多いので、これからDXについてしっかり理解して、それをふまえて今後の進路を決めていきたい。
- ・これからのことなど、いろいろなことを考えさせられるお話を聞くことができ、おもしろかったです。